

オープンAPIに対する銀行界の取組み

2020年2月27日



一般社団法人

全国銀行協会

銀行と電代業者のAPI利用契約の締結促進に向けた取組み

- 銀行と電代業者とのAPI連携は、金融界における「初」の試み。今後のAPI発展の為にも、契約締結期限までに確りと対応すべき重要な課題と認識
- その為には、「契約締結期限にお客様に混乱を生じさせない」という大命題の下、タイムラインを意識しながら、契約締結上のネックを双方で一つ一つ解決していくことが肝要

2017年5月 「銀行法等の一部を改正する法律」の成立（電代業者に係る体制整備、金融機関のオープンAPI体制整備）

- APIの電文仕様や電代業者へのセキュリティチェック・契約等について、**一定の目線が無ければ銀行・電代業者の双方にとって負担が大きい**

- ✓ 「API接続チェックリスト(試行版)」(2017/6月⇒2018/10月改定)
- ✓ 「オープンAPIのあり方に関する検討会報告書」(2017/7月)
- ✓ 「銀行分野のオープンAPIに係る電文仕様標準」(2017/7月⇒2018/12月改定)

2018年3月 銀行の電代業者との連携・協働方針の表明期限（129行がオープンAPI導入表明。うち122行が2020年6月迄の導入表明）

2018年6月 「銀行法等の一部を改正する法律」の施行

- ✓ 「銀行法に基づくAPI利用契約の条文例」(2018/12月)

2019年6月 全銀協会員アンケート(電代業者との契約締結状況)

- 銀行「電代業者との連携・協働事例や**サービス内容・利用者メリット、連絡先を知りたい**」
- 電代業者「**銀行数が多く、各行窓口を知りたい**」

- ✓ 「銀行と電代業者の連携・協働に係る環境整備に関する説明会」(7月、東京・大阪)
- ✓ 金融庁主催「オープンAPI推進に関する合同相談会」(7～10月、全国5ヵ所、計13回)
- ✓ 第二地銀協主催「会員行間による意見交換会」(10月)

2019年11月 金融庁「銀行と電代業者との契約締結等の状況について」公表

- 銀行と電代業者間で**更なる相互理解が必要**
- 電代業者の**セキュリティチェックが進んでいない**
- API接続が契約締結期限に間に合わない場合の**コンティンジェンシー・プランも必要**

- ✓ 地銀協・第二地銀協主催「**電代業者と銀行の意見交換会**」(11月)
- ✓ 「**電代業者との契約に係る今後の対応に関する説明会**」(12月)
 - 「電代業者のセキュリティチェック代行スキーム※」
 - 「スクレイピングに係る契約を検討する場合の留意事項」

(～2020年5月 API接続テスト完了)

2020年5月末 銀行・電代業者の契約締結期限

※ 電代業者8社について、NTTデータがセキュリティ面の対応状況を銀行に代わってヒアリング・実地調査をするサービス。全銀協として銀行の課題解決に向けた検討を行う中、同サービスを有力な内容と認識し、紹介を依頼

電代業者のセキュリティチェックを時短化する取組み

- 銀行における電代業者の**セキュリティチェックが思うように進んでいない状況**を受け、NTTデータが当該チェックを代行する「**電代業者のセキュリティチェック代行スキーム**」を会員銀行に提供(20行程度が本スキームに参加)
- 参加電代業者・銀行の双方から高評価。銀行のセキュリティチェック推進に貢献

スキーム実施の背景

- API接続に係る経済条件合意や契約締結の**前段階のプロセス**として、**銀行における電代業者のセキュリティチェックが必要**
- 2018年10月、FISCが、銀行と電代業者が効率的にコミュニケーションを行うためのツールとして「API接続チェックリスト」を取りまとめたものの、その後も以下のような理由で進捗は芳しくない状況
 - ✓ FISCのチェックリストはミニマムスタンダードとして作成されているため、**各銀行個別のチェック項目を追加するケースがある**
 - ✓ **電代業者側のマンパワーは限られており、多数の銀行と同時にやり取りすることが難しい**
 - ✓ 各電代業者によってチェック項目の回答内容は様々であり、**目線・認識の違いが生じた場合のすり合わせに時間を要する**
- 契約締結期限(2020年5月)を見据えると、**セキュリティチェックを早急に進める必要があることから**、全銀協とNTTデータで検討を重ね、2019年12月、「**電代業者のセキュリティチェック代行スキーム**」を会員行に提供

スキームの概要・結果・評価

- FISCのチェックリストをベースとしながら、**スキーム参加銀行の個別ニーズを取り入れた独自の共通チェックリストを作成**
- **NTTデータが電代業者に統一的な目線でヒアリングを実施**、チェック結果報告書としてスキーム参加銀行に還元
- 銀行20行程度が参加し、電代業者8社の協力を得て、セキュリティチェックに係る実地調査を実施(費用は銀行持ち)
- 参加者からの評価は下表のとおり。**概ね高評価**であった

	セキュリティチェック代行スキームの評価
電代業者	・事前に確認項目が整理されており、効率よく実査を受けられた ・1回の対応で20行程度カバーできることも効率的で有意義
参加銀行	・事前に追加チェック項目を募集し共通チェックリストを作成したことはニーズに合致しており評価できる ・個別行では全ての電代業者に対して実査を行うことは難しかったが、本スキームによって大幅な手間の削減となった ・統一的な目線でヒアリングが行われ、内容が偏ることなく必要な項目が網羅され、深度も十分、報告書もわかりやすい

【参考①】「銀行と電代業者の連携・協働に係る環境整備に関する説明会」「電代業者との意見交換会」

- 銀行と電代業者の連携・協働の推進を目的に、2019年7月に全銀協において「銀行と電代業者の連携・協働に係る環境整備に関する説明会」、同11月には地銀協・第二地銀協において電代業者との意見交換会を開催
- どちらの会合においても、銀行と電代業者の間で積極的な意見交換が行われ、契約締結に関する相互理解が進んだ

説明会開催の背景・概要

- 2019年6月、全銀協会員各行における電代業者との契約締結状況や交渉における課題・問題点・悩みについてアンケートを実施。電代業者との連携・協働の事例、電代業者が提供するサービスの内容や利用者のメリット等を詳しく知りたいとの意見が寄せられた
- これを受け、「銀行と電代業者の連携・協働に係る環境整備に関する説明会」(全銀協主催)を7月に東京・大阪で開催

説明会の結果・評価

- 121行、166名が参加(不参加は資産管理専門銀行やネット専門銀行のみ)
- 積極的な意見交換のほか、参加者アンケートで電代業者への質問が多数。コミュニケーションのきっかけとなった
- 電代業者からも「マンパワー不足の中、効率的に多くの銀行と顔合わせができて、大変有意義」との評価



大阪会場の様子

説明会次第

全国銀行協会	冒頭あいさつ・これまでの経緯について
金融庁	オープンAPI推進の意義、推進にあたっての留意点等について
三井住友銀行	APIの取組状況や具体的事例、APIの活用の展望について
電代業者10社	サービス内容や連携・協働に係るメリット等について

【その他の取組み】電代業者との意見交換会等

- 2019年11月、地銀協・第二地銀協において、それぞれ、担当役員向けに電代業協会の会員7～8社を招聘し、サービス内容等に関する相互理解のための意見交換会を開催(金融庁も同席)
- 2020年1月～2月、電子決済等代行事業者協会・あずさ監査法人が共催の「API接続チェックリストの順守状況に係るAUPセミナー」について、地銀協・第二地銀協から会員に周知を実施。電代業者によるセキュリティチェック負担軽減の取組みに積極的に参画

【参考②】「電子決済等代行業者との契約に係る今後の対応に関する説明会」

- 電代業者との契約締結に係る課題に対する銀行の対応力強化を目的に、2019年12月、全銀協において「電子決済等代行業者との契約に係る今後の対応に関する説明会」を開催
- 説明内容に関して、参加者からは多数の質疑が寄せられ、参加銀行全体による知見の共有も進んだ

説明会の趣旨・概要

- 2019年12月6日、「電子決済等代行業者との契約」に関して、各銀行が直面している、以下の課題の対応に向けた説明会を開催
 - ✓ **電代業者のセキュリティチェックが進んでいないこと**
 - ✓ 猶予期限が迫る中、銀行法改正の趣旨を踏まえ、API接続を原則として考えていても、**実務的に対応が間に合わない**場合があること
- これらの課題に対する、**当局の考え方**や**専門家の知見**、**ベンダーによる課題解決スキーム**等を説明会で紹介することにより、**銀行の対応力強化を企図**

説明会次第

金融庁	電子決済等代行業者との契約締結に係る今後の対応について
弁護士	スクレイピングに係る契約を検討する場合の留意事項について
個別2行	スクレイピングに係る契約の検討状況について
システムベンダー	電子決済等代行業者のセキュリティチェック代行スキームについて

説明会の結果・評価

- 当日は、131行、202名が参加
- 当局から今後の対応について方針が示された後、「スクレイピングに係る契約を検討する場合の留意事項」※について、監修した弁護士から説明
- また、合併やシステム改修によりスクレイピング契約をせざるを得ない銀行の取組み事例として、個別2行から対応状況を紹介
- さらに、API接続に係るセキュリティチェックの時短化や電代業者・銀行双方の負担軽減を目的とした、「**電代業者のセキュリティチェック代行スキーム**」(P.1の注釈参照)をNTTデータから紹介
- 説明内容に関して、**参加者からは多数の質疑が寄せられ、参加銀行全体による知見の共有も進んだ**



説明会の様子

※ 本留意事項は、電代業協会からもご意見をいただきつつ、全銀協・地銀協・第二地銀協で纏めたもの。本説明会に合わせて制定し、会員宛に周知・共有した

【個別行の事例】API接続までの時限的なスクレイピング契約への対応、今後の課題

- 顧客利便性の維持を図るため、スクレイピングを許容する経営判断を実施。2019年12月までに5社と契約締結済
- オープンAPIの基盤は整備済。API接続・協業を進めてきたが、2019年5月より、勘定系システム更改に向けて**システム開発の全面的な凍結期間**に移行。**APIの追加接続を中断せざるを得ない状況**となった経緯

スクレイピング契約締結までの経緯

- オープンAPIの基盤整備は実施済。電代業者とAPI接続に向けて協議を実施し、**2018年11月に1社と契約締結**
- 2019年5月より、勘定系システム更改(2021年に更改予定)に向けて**全面的なシステム開発の凍結期間**に移行。結果、**APIの接続に係るシステム開発を中断せざるを得ない状況**となった
- システム開発の凍結期間に移行し、**API接続契約の推進ができなくなった**一方で、既存サービスを維持することで**顧客利便性を確保する必要があり**、2019年10月末、**スクレイピングによる接続を許容する経営判断を実施**。以降、電代業者とスクレイピング契約について協議。**電代業者5社と契約締結済**
- 2019年12月、「電子決済等代行業者との契約締結について」をプレスリリース。スクレイピングの取組みは、①より質の高い金融サービスを提供できるよう**電代業者とのオープン・イノベーション**を図る目的であること、②**恒久的なものではないこと**等を公表

スクレイピング契約を締結する際に生じた課題と対応

- スクレイピング契約締結にあたり、課題に直面

課題	対応
スクレイピング固有のリスク把握・受容の考え方の整理に苦慮	・「スクレイピングに係る契約を検討する場合の留意事項」を参考にすることで対応
スクレイピング契約の期限設定について電代業者と認識が異なっていた	・API契約までの時限的措置という考え方のもと、契約内容を調整

今後の課題・方向性

- 2020年5月末に向けて、**残る未契約先3社との交渉継続**
- スクレイピング契約の締結にあたっては、契約期限を定め、**2021年予定の勘定系システム更改後、速やかにAPI契約に移行することが前提**
- 勘定系システム更改までに**電代業者とAPI契約に係る条件の妥結が必要**。妥結に至らずサービス継続が難しくなった場合、**顧客影響に配慮した対応を行う方針**



一般社団法人

全国銀行協会